

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑 グループホーム はるか(1階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	令和 3 年11月22日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 3 月 25 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0194600094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様1人1人のこれまでの暮らしに大切にしながら、ご家族様含め希望や要望に沿った生活の実現に向け、その人にスポットをあてた活動なども提供できるよう心掛けています。毎日の生活の中での役割を大切に、季節のあったホール内の装飾も利用者様に楽しみながら一緒に作るなど、利用者様が今出来ていることを続けられるようお手伝いさせて頂いております。毎日の日課を元に、就寝時間などその方にあった生活サイクルの中で経過して頂けるよう対応しています。食事もご家族様の協力も得ながら、その方の好きなものを提供するなど、施設での提供する献立以外にも対応しています。コロナ禍のため、ご家族の面会は控えている状況ですが、毎月利用者様のご様子を個々に手紙としてご家族に届けており、ご家族様とのつながりが切れることのないよう工夫しながら、定期的にご家族様とコミュニケーションを図るよう対応しています。

当事業所は、都心部から少し離れた静かな住宅街に位置し、周辺にはスーパー、商店街、病院などがあり生活の利便性に恵まれている。建物には同事業所の他、母体法人の小規模多機能ホームと介護支援事業所が併設されているが、避難訓練や事業所行事の感謝祭等は合同で実施しており、行事では3つの施設との交流や地域住民も参加しての交流も行っている。永年の地域との交流から行事等での協力が得られており、事業所が地域の中心的な存在になっている。ただ、現在はコロナ禍で地域との交流は自粛している。災害時における事業所施設利用の要望も地域から出ている。コロナ禍前までは「個別の日」を設けて買い物や外食、法人のバスを利用して周辺の催事の見物に行くなどの支援をしていたが、現在は自粛している。法人は職員の育成に努め、法人内に育成委員会を設置して、内部研修、外部研修に参加させ質の高いケアに努めている。事業所に隣接している河川は将来的に水害の可能性もあり、運営推進会議で提案されている。また、水害だけでなく地震や停電など複合的な災害が生じた場合のマニュアルのバージョンアップを検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体のケア理念を玄関に掲示し、利用者様やご家族様だけでなく、職員にも毎日目を止めるよう心掛けています。また職員会議などを通じケア理念の理解、実践に向けての取り組みを行っています。	法人全体のケア理念を玄関に掲示し、出入りには必ず見えるようにしている。会議等では職員全体で理念を共有し、実践に向けて確認しあっている。	法人全体のケア理念を基に職員全員で事業所全体、ユニット毎のケア目的を具体化し、ケアの実践につなげていく事を期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を回したり、町内会行事への参加を心掛けています。毎日の出勤退勤時等、率先して挨拶を行っています。	コロナ禍前は町内会主催の行事に参加したり、事業所の裏庭を使い合同防災訓練を行ったり、同じ建物内の小規模多機能事業所と合同で夏祭りや花火大会「青空サロン」等を主催し、地域の住民や子供たちをの交流を深めていたが、現在は自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の機会を通じて情報発信を行い、グループホームでの生活の様子等伝えています。認知症に関する相談なども、積極的に対応しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍のため、集合会議が開催できておらず、文書にて送付対応しています。	2ヶ月毎に書面会議が開催されている。コロナ禍前では併設されている小規模多機能介護施設と合同で、町内会長や民生委員、老人クラブ連合会、地域包括支援センター職員、家族代表等が会議に参加していた。書面会議の議事録は関係者に送付している。	書面会議の議事録を送付した後に会議委員から意見や助言、提案に繋げられるような工夫を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的な情報交換、情報提供等、電話を中心に行っています。	市担当者を訪問して、事業所運営に関わる書類提出等で意見や助言を得たり、電話でのやり取りするなど、行政との関係を継続している。法改正などには常に確認し意見をもらっている。SOSネットワークに加入している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設におけるマニュアルを配布し、毎月の会議の中で、身体拘束についての確認、勉強を行っています。また法人内での身体拘束に関する研修会に参加し、学んできたことを、職員にフィードバックし、理解を深めています。	身体拘束委員会は毎月開催し、利用者に対するケアに注意したり、法人内外での会議研修後の内容を報告し、予防策について検討している。「拘束」という言葉を会議で出すことで意識づけしている。外出したがる利用者については隣の小規模多機能施設と協力体制をとっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても身体拘束と合わせて、会議や勉強会で話す機会を持っています。また個々の職員とも日常的に話す機会を持ちながら、その理解に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の利用者様の状況を勘案しながら、成年後見制度を学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報等について、ご家族様含め時間を取って説明し、理解と同意を頂いてからの契約行為を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事へ参加して頂き、意見を頂いています。また面会時や通院同行時など、直接ご家族様と話す機会を作り、随時ご意見、ご要望を確認しています。	コロナ禍により、家族が集まれる行事は自粛しており、そのために意見や要望などを聞く機会がなくなっている。現在は電話連絡や、家族同行による病院への受診時に声掛けをして意見や要望を聞くように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ごとの会議や法人役職者の会議など通じ、それぞれの会議で得た情報を伝え、状況の把握を行っています。その上で、運営に関する提案の機会を作っています。	管理者は常時職員の意見や提案を聞く機会を設け、話しやすい雰囲気を作っている。意見は事業所内で解決できることはその都度職員間で相談している。「職員の働き方」や「親の介護について」等、法人へ伝え運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には先輩のお世話係をつけ、1年を通じて育成を図り、双方が学べる機会、環境を作っています。個々の職員の心の動きなど把握するために、日常的な会話や面談を行い、継続的なサポートを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会を作り、各委員会への研修参加や勉強会を開催し、学びの機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームや地域の研修会への参加を通じ、ネットワーク作りや知識向上の機会を作っています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人様、ご家族様と面接・聞き取り調査、他施設や病院からの情報を提供して頂き、事前情報の把握に努め、利用開始時には職員が間に入り馴染みやすい雰囲気を作るよう努めたり、周りを気にされないよう二人で話す時間を作り要望を聞いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来訪された時には、ご本人の様子を伝え、ご家族が不安に思っていることや要望などお話を聞いています。また毎月ご家族あてに、ご様子や写真をのせた手紙をご家族に送っています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	集めた情報を元にチーム内で話し合いを行い、必要な支援や適切なケア方法を検討し、職員間で情報共有し、その方が望む生活の実現に向け、支援しています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している事を感じ取って頂ける様に、掃除や茶碗洗いなどを行い、その都度職員から感謝の言葉を伝えていきます。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在面会や外出の制限がある為、毎月のお手紙やオンライン面会を行っています。また、ご家族が来訪された時には利用者様の最近の様子などを伝えていきます。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会や外出が出来ていない為、直接会うことは出来ませんが、電話でお話をされる事がありました。	隣接の小規模多機能施設との交流でその施設出身者の利用者もいるため、顔なじみの関係継続が途切れないよう努めている。職員は利用者が昔の写真を見てエピソードを話しや馴染の場所等の思い出話を傾聴する様工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に体操やレクリエーションなどの活動を行い、利用者様同士が関われるように職員が間に入っています。特にレクリエーションでは共同作業行ったりと協力し合えるレクを行っています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先の施設から情報提供の依頼があった時には速やかに対応しています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者様とお話する機会を設け、思いや訴えを聞き取っています。また、声掛けしながらご本人の意思を確認し介助を行っています。	日常的に利用者に思いや希望を聞き取るように努め、家族からも聞き取りながら意向を把握している。得られた情報は職員全員で共有しケアに活かしている。意向等を上手く伝えられない利用者には、普段からの様子や状態を注意深く観察し、汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報に加え、ご本人との会話の中から情報を引き出したり、必要に応じてご家族から情報を提供して頂いています。			

帯広けいせい苑 グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態について変わったことがあれば、チームノートや日誌などで申し送りを行い、都度チーム内で情報共有を行っています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム会議にて利用者担当が主になり会議を開催し各職員で話し合う場を設け、その意見に沿って介護計画を作成しています。	担当者ケアマネが介護計画書の原案を作成し、6ヶ月毎にチーム会議で他の職員から意見を聞き取り、家族からも意見要望を聞きとり介護計画書を作成している。緊急時には随時状況に合わせて計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様毎に日々の記録を行っています。また、毎月ケアプランに対してのモニタリングを行い利用者様の状況の把握に努めています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族から要望があった際には、上司と相談しながら実現可能か相談しながら対応させて頂いています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの為参加していませんが、地域のサロンに参加を希望される利用者に参加し、他者との交流をされ楽しんでいます。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期受診や急変時の通院の際には職員が同行して利用者様の最近の様子について情報提供を行っています。また、通院後にはご家族に通院結果をお伝えしています。	事業所に協力病院から月に1回往診がある。今までのかかりつけ医や他の専門医については基本的に通院は家族対応での受診になっているが、状況に応じて職員が家族と同行し、受診内容を報告することがある。医師の指示のもと、看護師(週1回)による適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子がいつもと違うときや体調不良の訴えがあった時には、都度看護師と相談したり必要に応じてかかりつけの医師に相談し対応しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院時には職員が同行し、利用者様の様子、状態を伝えています。入退院時も互いに情報交換を行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態変化について都度チーム内や上司と情報共有を行っています。ご家族に対しても利用者様の現在の様子を伝えています。	入居時に「重度化した場合における対応指針」に基づき説明し同意を得ている。看取りはしていないが重度化した場合や医療行為が必要となった場合職員と話し合い、看護師担当医を含め対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを用意し、突発的な事態に対して対応出来るように努めています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間・水害を想定し避難訓練を行っています。	昼夜想定して年2回の避難訓練をしているが、同じ建物内の小規模多機能事業所と合同で避難訓練を実施している。水害訓練では建物上部へ避難するために、その避難経路などの確認する予定である。コロナ禍の終息時には災害対策BCP(事業継続と復旧計画)を作成し町内と合同訓練も検討中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者に聞かれないと思われる時には、耳元で話したり、場所を変えてお話をさせて頂いています。居室に入る時や何かする時には利用者様に確認してからさせて頂いています。	排泄時の声掛けは耳元で行い本人の尊厳を損なわない配慮をしている。職員全体でケア理念を意識しながら言動に注意し、研修会などで学んだことを共有しながら人格も尊重するような配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしてもご本人に確認しながら行っています。また、普段からご本人とお話する時間を作り、悩みややりたい事など、話しやすい雰囲気づくりに努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人から要望があった際には、その要望を叶えられるように、チーム職員と連携し時間を設けたり、日課としてやりたいことがあれば他職員とも情報共有を行い、介助が必要な部分があればお手伝いをしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪など、必要に応じお手伝いさせて頂いています。洋服を選ぶ際にもご本人と相談しながら決めさせて頂いています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には食前の食卓の消毒をして頂いたり、食後には茶碗洗いを手伝って頂いています。コロナ前には盛り付けなども手伝って頂いていました。また、食前にメニューの説明をしたり、利用者様の好物を気にかけて声掛けを行っています。	利用者の嗜好を取り入れながら、栄養のバランスを考えた食事を利用者と話しながら作っている。又利用者の能力に応じて、食事の準備や後片付けを行い、職員と一緒に食事を楽しんでいる。行事食など四季を感じられるよう畑の収穫や旬の食材を使って料理を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく召し上がって頂ける様に、おかずの味を伝えたり、声掛けをしたり、食器の配置を工夫しています。また、ふりかけや海苔のつくだ煮など、各利用者様の希望を聞きながら提供しています			

帯広けいせい苑 グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方はそれぞれ状態に合わせて介助しています。 全利用者様を対象に年1回歯科検診を行っています。歯科の介入が必要な方は定期的に歯科往診受けています。歯科のアドバイスを元に介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入しそれぞれの方の排泄パターンに合わせ、声掛けやトイレ誘導を行っています。パッドの種類等もチーム内で相談し適したものを使用して頂ける様に取り組んでいます。	利用者一人ひとりの排泄チェック表により排泄パターンを把握して、日中は何気ない声かけを行ない、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便リズムを把握したり、水分量や食事量、運動量などの把握に努めています。必要に応じファイバーの提供や医師と相談しながら下剤の調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずに利用者様の都合や気分に合わせてながら入浴にお誘いさせて頂いています。入浴時間やお湯の温度など、それぞれの利用者様の要望を聞きながら対応させて頂いています。	週2回午前中の中の入浴を支援している。利用者によっては2人介助もあるが、一人一人のペースに合わせて柔軟に対応している。入浴を好まない利用者の対応については、カンファレンスなどで話し合い、支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床・起床時間は特に決めず、声掛けはしていますがそれぞれの利用者様に合わせています。眠れない時にはお話を聞いたり、ちょっとしたものを食べたり安眠できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の個人ファイルに薬剤情報を挟みいつでも閲覧できるようにしています。毎月の医師往診時に各利用者様の様子、状態の変化についてまとめ、把握するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様によって得意な事、好きな事を提供しています。歌や、細かい作業、おやつ作り、運動など、それぞれの利用者様が楽しみ活躍できるような活動を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で人の集まる場所には外出が出来ませんが、近場を散歩したり、ドライブをしたり、夏には外でおやつを食べたりと、室内にとどまらず外の空気に触れる機会を設けています。	コロナ禍で外出が制限されているが、その中でも散歩をしたり、事業所の庭先のベンチでおやつを食べたりと工夫している。	

帯広けいせい苑 グループホーム はるか(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を管理されている方はおらず、利用者様が何か欲しいものがある時には、ご家族に伝えたり、職員が代わりに購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在面会が出来ず、オンライン面会を行っています。利用者様が電話をしたいと要望があれば、施設の電話を使用し話されています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やホールの環境整備を行っています。利用者様と季節の飾りを作り飾ったり季節を感じて頂ける様に一緒に取り組んでいます。	共有ホールは調理室と事務所から利用者全体が把握でき、壁には利用者と一緒に行った季節感を感じるような飾り付けやイベント時の写真が飾られ、居心地の良い空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的にホールのレイアウトを見直し、利用者様がリラックスして過ごして頂ける様な環境づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外はご家族が持って来て下さったものを使用し、それぞれの利用者様の好みに合わせ、写真やポスターなどが飾られています。利用者様が模様替えをしたいと話された時には、職員が要望を聞きながらお手伝いをしています。	利用者と家族が相談しながら使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、家族の写真・遺影・飾り物・ぬいぐるみ等を飾り、利用者が居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が迷わないように居室前に名前を掲示させて頂いたり、トイレの場所などもわかる様にしています。フロア内を安全に移動できるように明るさや障害物に注意し、動きやすいように動線を確保しています。		